

講演

「要録を学ぶ 要録で学ぶ 要録から学ぶ」

講師 帝塚山大学 教授 清水 益治氏

<要録を学ぶ>

1、 要録とは何か

- 幼稚園幼児指導要録・小学校学習指導要録・・・学校教育法施行令 学校教育法施行規則
- 保育所児童保育要録・・・保育所保育指針
- 幼保連携型認定こども園園児指導要録・・・認定こども園法施行令 認定こども園法施行規則

要録とは → **子どもの育ちを支えるもの** どうしたら支えられるか？

2、 要録の活用のされ方

「昔」 幼稚園のみ。→ すべての子どもではないので、学校側にしたら情報不足。
活用しにくい。

「昨年まで」 幼稚園からも、保育所からも、認定こども園からも提出。
ただし、保育所は別様式。

「今、これから」 ほぼ統一内容で、幼稚園からも、認定こども園からも提出。
どこからも同じ様式で情報が入ってくる。子どもがしてきた経験をもとに、
授業が進められるようになる。→ 段差のない接続。

小学校学習指導要領に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が入った。

<要録で学ぶ>

グループワーク

各園それぞれが持ち寄った要録を見せ合いながら、書かれている部分に対して10の姿のどれを伝えているか、この表現はこうかな？など話し合っていく。

<10のグループに分かれての話し合い>



<グループワーク後、それぞれ「アクティブステージ研修記録」に記入>

●設問に対しての記録の書き方

「アクティブステージ研修で何をしましたか」→ 行動レベルで書く。

例) 講師の話聞いた、レジメにメモをした、自園の要録では10の姿を
○○と伝えなかったと述べた、他園の要録を読んだ、など。

「何を学んだか」 → 何をしたかに書いたことがつながるように書く。

「今日の学びをどう生かしていくか」→ 園に戻ってどう伝えるかを書く。

◇参加者による研修記録をまとめ、
次の研修へとつなげていく。



<要録から学ぶ>

保育者が要録を書く際の留意点

① 学習者中心の環境

子どもの小学校でのスタートラインを示す。= 「育ち」や「学び」を支える資料。
子どもの状況に基づいた授業ができる。

② 知識中心の環境

知識をもとに授業を進める。→ ・小学校教員が活用できる知識になるように。
↓
・保育者同士でも活用できる知識になるように。
思考力、判断力、表現力などの基礎の先にあたるもの。

③ 評価中心の環境

小学校教員からのフィードバック } 「話し合いながら決めていく。」= 唯一の正解はない。
子どもや保護者にフィードバック }

理解し合うためには話し合いの機会を増やす。
大人が話し合うと、子どもが話し合う環境につながっていく。

④ 共同体中心

要録以外での小学校教員と保育者の交流が上記を支える。
要録のみでなく、いろんな場面で交流し話し合っていく。



誰がどこで子どもの育ちを支えるのか？



保育者が園で。教師が学校で。

どうしたら支えられるのか？



話し合いの機会を増やし、理解し合う。
少なくとも園の中での話し合いを充実させていく。

グループワークでは、他園の要録を見て考え話し合う中で、いろいろな視点を知る。
正解があるわけではない。いろいろな視点があることを知り、気づくことが大切。

作成者 幼児教育アドバイザー 児玉 純子